



2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 日本和装ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2499 URL <https://www.wasou.com/profile/ir/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 道面 義雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 鶴野 尚史 TEL 03-5843-0097
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 2022年9月12日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無（2022年8月17日に当社ウェブサイトにおいて決算説明の動画配信を予定）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年12月期第2四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	2,391	—	235	62.2	230	50.5	128	25.0
2021年12月期第2四半期	2,322	26.4	144	—	153	—	102	—

（注）包括利益 2022年12月期第2四半期 143百万円（35.3%） 2021年12月期第2四半期 106百万円（—%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	14.18	—
2021年12月期第2四半期	11.34	—

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前年同四半期増減率は記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第2四半期	8,740	3,350	38.3
2021年12月期	8,958	3,296	36.8

（参考）自己資本 2022年12月期第2四半期 3,350百万円 2021年12月期 3,296百万円

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	5.00	—	7.00	12.00
2022年12月期	3.00	3.00			
2022年12月期（予想）			3.00	4.00	7.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,093	—	460	3.4	450	0.5	272	0.6	30.06
	～5,193	～—	～513	～15.3	～498	～11.2	～305	～12.9	～33.73

- （注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無
 2. 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期2Q	9,134,000株	2021年12月期	9,134,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期2Q	68,400株	2021年12月期	68,400株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期2Q	9,065,600株	2021年12月期2Q	9,065,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が徐々に緩和され、持ち直しの傾向がみられるものの、ロシア・ウクライナ情勢の悪化による原材料価格の高騰や急激な円安の進行など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の抑制に必要な対策、対応を実施しながら営業活動を行ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間における業績面につきましては、「やります！もっと着物、自由化宣言」をキャッチフレーズに、「完全手ぶら教室」や「時短教室」など今までにない新たな着付け教室の展開を行うことで、今まで獲得できなかった顧客層の獲得へ力をいれてまいりました。ツアー・イベント関連につきましては、「きものブリリアンツ全国大会」の出場権を獲得する為の登竜門である「きものブリリアンツ地区大会」が全国19会場で開催され多くのお客様に足を運んでいただいたことや、5月に開催いたしました「はかた匠工芸ツアー」がコロナ禍になり実施されたツアー・イベントの中で過去最高の集客数となり、子会社であるはかた匠工芸株式会社とのシナジー効果を発揮することができました。その他にも、着付け教室の卒業生を対象に「米沢織応援ツアー」「加賀友禅イベント」などの産地や商材をしっかりと打ち出したツアー・イベントの企画等を実施したことで、販売仲介の取扱高が好調に推移いたしました。また、当社恒例のイベントの中でも特に力を入れている全国17会場で開催された「縁の会」と東京が会場となる「遊々会」には、約2千人がご来場いただき、遊々会東京会場では取扱高が過去最高実績となり、好調な結果となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間における段階利益は黒字を確保することができました。

今後は当社の「教えて・伝えて・流通を促す」という従来のビジネスモデルのメインブランドに加えて、サブブランドの創造にも注力してまいります。サブブランドでは、これまで対面で教え伝えていたものを、オンラインも活用して、当社メインブランドよりも低年齢層となる20代から40代をターゲットとして市場や新規顧客を開拓し、販売へとつなげてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、売上高2,391百万円（前年同四半期は2,322百万円）、営業利益235百万円（前年同四半期比62.2%増）、経常利益230百万円（前年同四半期比50.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益128百万円（前年同四半期比25.0%増）となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は8,375百万円となり、前連結会計年度末に比べ178百万円減少いたしました。これは主に営業未収入金が38百万円増加した一方で、現金及び預金が227百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は365百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産が36百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、8,740百万円となり、前連結会計年度末に比べ217百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,433百万円となり、前連結会計年度末に比べ467百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が280百万円、未払法人税等が79百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は1,956百万円となり、前連結会計年度末に比べ196百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、5,390百万円となり、前連結会計年度末に比べ271百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,350百万円となり、前連結会計年度末に比べ53百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益128百万円及び剰余金の配当90百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は38.3%（前連結会計年度末は36.8%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、2,425百万円(前年同四半期は2,155百万円)となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は42百万円(前年同四半期は154百万円の獲得)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益230百万円、営業未収入金の増加35百万円、その他の減少109百万円、法人税等の支払額145百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は24百万円(前年同四半期は1百万円の使用)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出9百万円、定期預金の預入による支出5百万円、ゴルフ会員権の取得による支出4百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は174百万円(前年同四半期は432百万円の使用)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1,538百万円、短期借入金の純減少額45百万円、配当金の支払額90百万円、長期借入れによる収入1,500百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期連結業績予想につきましては、2022年2月14日の「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,870,407	2,643,358
営業未収入金	208,002	246,275
割賦売掛金	4,930,393	4,957,797
棚卸資産	144,906	132,844
その他	465,004	465,931
貸倒引当金	△65,186	△70,810
流動資産合計	8,553,527	8,375,396
固定資産		
有形固定資産	165,138	156,479
無形固定資産	9,911	15,657
投資その他の資産	229,835	192,899
固定資産合計	404,885	365,036
資産合計	8,958,413	8,740,432
負債の部		
流動負債		
営業未払金	29,900	40,498
短期借入金	2,690,854	2,410,626
未払法人税等	151,103	71,358
前受金	430,643	—
契約負債	—	413,497
営業預り金	14,195	43,703
その他	584,177	453,973
流動負債合計	3,900,873	3,433,657
固定負債		
長期借入金	1,753,994	1,950,238
その他	6,625	6,399
固定負債合計	1,760,619	1,956,637
負債合計	5,661,493	5,390,294
純資産の部		
株主資本		
資本金	478,198	478,198
資本剰余金	292,211	292,211
利益剰余金	2,546,864	2,584,769
自己株式	△22,629	△22,629
株主資本合計	3,294,644	3,332,550
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,275	17,587
その他の包括利益累計額合計	2,275	17,587
純資産合計	3,296,919	3,350,138
負債純資産合計	8,958,413	8,740,432

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	2,322,898	2,391,554
売上原価	226,606	189,137
売上総利益	2,096,291	2,202,417
販売費及び一般管理費	1,951,406	1,967,367
営業利益	144,884	235,049
営業外収益		
受取利息	21	460
助成金収入	29,488	6,356
為替差益	1,242	7,180
その他	1,534	788
営業外収益合計	32,287	14,786
営業外費用		
支払利息	13,965	12,732
支払手数料	9,858	6,329
その他	159	256
営業外費用合計	23,983	19,318
経常利益	153,188	230,517
税金等調整前四半期純利益	153,188	230,517
法人税、住民税及び事業税	36,066	69,493
法人税等調整額	14,306	32,462
法人税等合計	50,373	101,955
四半期純利益	102,815	128,561
親会社株主に帰属する四半期純利益	102,815	128,561

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	102,815	128,561
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,545	15,312
その他の包括利益合計	3,545	15,312
四半期包括利益	106,360	143,874
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	106,360	143,874

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	153,188	230,517
減価償却費	18,140	15,947
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,880	5,624
受取利息	△21	△460
支払利息	13,965	12,732
助成金収入	△29,488	△6,356
営業未収入金の増減額(△は増加)	△52,617	△35,340
割賦売掛金の増減額(△は増加)	33,965	△27,404
棚卸資産の増減額(△は増加)	△5,726	12,722
営業未払金の増減額(△は減少)	△13,368	10,378
前受金の増減額(△は減少)	80,232	—
契約負債の増減額(△は減少)	—	△17,146
営業預り金の増減額(△は減少)	15,305	29,507
割賦利益繰延の増減額(△は減少)	△10,932	△9,968
その他	△28,763	△109,535
小計	175,759	111,217
利息の受取額	21	460
利息の支払額	△13,800	△13,091
助成金の受取額	25,056	4,148
法人税等の支払額	△32,275	△145,370
営業活動によるキャッシュ・フロー	154,762	△42,634
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△5,834
有形固定資産の取得による支出	22	△3,469
無形固定資産の取得による支出	△467	△9,550
ゴルフ会員権の取得による支出	—	△4,665
敷金及び保証金の差入による支出	△1,235	△1,549
敷金及び保証金の回収による収入	140	807
その他	—	△137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,540	△24,398
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△665,000	△45,000
長期借入れによる収入	1,350,000	1,500,000
長期借入金の返済による支出	△1,053,770	△1,538,984
配当金の支払額	△63,459	△90,656
その他	△214	△222
財務活動によるキャッシュ・フロー	△432,443	△174,862
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,634	7,417
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△275,586	△234,478
現金及び現金同等物の期首残高	2,431,130	2,660,274
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,155,544	2,425,796

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客への商品の提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高及び売上原価が90,222千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。また、前第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「前受金の増減額(△減少)」は、当第2四半期連結累計期間より「契約負債の増減額(△は減少)」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。